

獅子舞

都留市の祭礼の風流（フリュウ）として、神輿や稚児舞、大名行列などがあげられますが一番普及しているのは獅子舞です。

獅子舞のことを神楽（カグラ）を舞うともいいますが、神楽にはいくつもの種類があって獅子舞はその中の一つです。獅子舞を獅子神楽ともいいます。

神楽とは字義のとうり、神様が楽しむためのもので、氏子の人達が、神楽を舞って神を楽しませ、また自分たちも神と共に楽しむのです。天の岩戸の前で天照大神を迎えるために踊りをおどったことが起源とされています。

神楽は全国各地で様々な形で行なわれています。

宮庭で行なう宮中神楽に対して民間で行なっている神楽を里神楽といいます。里神楽は

- ① 神社に仕える巫子さんが舞う巫子神楽
- ② 島根県を中心とし山陰・山陽地方の出雲神活を織り込んだ出雲神楽
- ③ 伊勢神宮からはじまったという湯で清める湯立神楽
- ④ 獅子頭によって悪魔払い火伏せ延命息災を祈禱する獅子神楽ともいわれる大神楽

と大きく4つに分けられます。

都留市の神楽は獅子頭を使っているので④の大神楽（獅子神楽）に分類されます。大神楽の中に一人立ちや二人立ち、あるいはそれ以上入るのがあります。また雌雄二頭立てとか親子三頭立てとか様々な形があって、舞も囃も様々に変化して伝えられています。

都留市は獅子舞を祭りの風流として奉納する神社の多いところですが、私たちが直接調査したところだけでも、北から

三嶋神社(田野倉・春秋二度) 稲村神社(小形山) 諏訪神社(川茂・現在中止) 八王子神社(古川渡) 御嶽神社(与縄) 五社神社(朝日曾雌) 生出神社(四日市場) 新井天神社(新井・現在中止) 金山神社(上谷) 三社神社(羽根子) 若宮八幡社(金井) 赤石春日神社(中津森) 船形春日神社(大幡) 春日本社(高畑) 小野熊野権現(小野) 三輪神社(大野) 愛宕神社(法能) 生出神社(法能) 金山神社(戸沢) 御嶽神社(戸沢) 金山神社(玉川) 小篠神社(十日市場) 八面神社(夏狩) 十二天社(夏狩) 今宮神社(鹿留)

などが数えられます。この他にも勝山八幡(川棚)でも獅子舞の奉納があったといい、普通は神楽堂ですが平栗の浅間神社では神楽殿まであった



神楽奉納（金山神社）

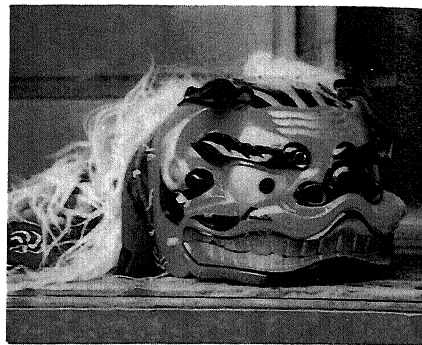
と社記にあるのをみると、まだまだ多くの獅子神楽があったものと思われるます。

獅子神楽はふつう二人立ちの獅子と一人立ちのものがありますが、都留市の場合は演目によって一人立ちになったり二人立ちになったりで、両方を兼ねています。

獅子には雌雄があるといわれていますから、「こちらの獅子は雄ですか、雌ですか」と聞きますと、一様に「雌だよ」といいます。それを証明するように都留市の獅子頭に角のあるものは一つも見当りません。そうして、「うちの獅子舞は荒々しくなく上品だ」と説明してくれます。

都留市ではなぜ雌獅子だけが普及したのか、これは大変不思議なことではなぞのような気がしますが、八面神社ではかなり荒々しい剣の舞がみられますがやはり雌獅子であり、今宮神社のように三地区から三頭の獅子が一堂に集まって奉納されるのに、やはり三頭とも角のない雌獅子です。

祭礼儀式として神前で獅子舞が奉納されたあと大概、村舞い、辻舞いへと移りますが、獅子舞が移動するときの本来の役目は、神輿の巡幸の先にたって、悪魔払い、露払いをすることにあります。ですから祭礼行事として神輿の巡幸が行なわれる場合は、神輿には神様が鎮座していますから、その先にたって舞いながら先導していくのが本来の姿です。でもいまは、神



▲都留市の一般的な獅子頭
(金山神社)

◀他地区でみられる角のあ
る獅子頭



辻 舞 い

輿は神輿、神楽は神楽で勝手に行動しているところも多いし、交通事情のため神輿の巡行はできなくなり神楽だけが村舞をするところもあります。

神輿のあるところでは神様がとおりになるというので神輿を拝んだり賽銭をあげたりしますが、神楽に向かっては拝むようなことはありません。ですから会所などで獅子舞が行なわれるのは、会所に祀られている氏神様の分身へ奉納するために舞っているわけです。

ところが神輿はないけれど神楽はあるというところがずい分とあります。神輿がなければ神霊が宿るところがないから、村の家々を訪れることはできなくなります。こうしたところでは、獅子に神が宿っていると考えられています。ですから神輿はなくても獅子神楽があるというところでは、昔は一軒一軒、氏子の全戸を獅子舞が訪れているのをみても悪魔を払う神として獅子を迎えていたことがよくわかります。そのため二日ばかり三日ばかりで獅子舞が行なわれたものです。

こうした獅子舞も現今では、神輿があるところもないところも獅子舞は神社でしか奉納しないとか、村舞いに出ても辻舞いとか特定の家でしか舞わなくなり、単なる縁起ものとして考えているようです。悪魔除けという意味も家々を回らなくなるにつれて次第に薄れ、神殿での奉納という儀式だけに変わりつつあるようです。それでも獅子に手を咬んでもらい虫ふうじ

のまじないや、強く丈夫な子として育つようにというまじないとしている姿が目撃でき、民俗信仰が糸のように細くはなってもまだ命脈を保っていることがわかりました。

獅子頭をつけ、幣束・鈴・剣などを持って舞う獅子舞は大神楽の特長です。伊勢あるいは尾張が発祥とされています。生出神社には熱田神宮からの神楽免許状が保存されていて、四日市場の神楽が熱田神宮の大神楽の系統であることを決定づけています。熱田神宮からの免許が生出神社だけに与えられたかどうかは不明ですが、新井の神楽の伝承では、都留市一円の神楽の師匠元は新井であるとしているので、あるいは生出神社以外にも免許が与えられたかも知れません。西桂や富士吉田の方でも、神楽は谷村から伝わったとか生出神社から伝わったとしていますから、郡内一円の神楽は少なくとも都留市を発祥の地としているとみてよいと思われれます。

とにかく獅子舞は多くの村々に受け入れられ広まっていきました。伝承のされ方と、長い時間を経過する中で少しずつ形を変えていきました。都留市で演じられている獅子舞を比較すると、同じ大神楽なのに大なり小なり違いが見られます。踊りの仕草も違うし、持ち物も違うし、唄の文句も違います。

演目としては、ヤドイリ（シュク入）・トウリ・（ゴ）ヘイノ舞・九龍・布・シャギリ・サガリハ・鈴ノ舞・アガリ・四方固メ・剣ノ舞・クルイ・玉遊び・余興などあり、内容としては同じものを別の演目名で呼んでいるものもあり、同じ演目のようでも例えば幣の舞を二人立ちでやるところもあれば一人立ちのところもあるというように違いが見られます。たくさんの演目のようですがこのうち3ないし5演目が演ぜられています。小野で見られる例では、玉遊びは前夜、年番に当たった家でのみ演じ、神社では奉納することはないとしているようなところもあります。この玉遊びは隣の大野三輪神社の祭礼では、玉遊びそのものが継承されていません。剣の舞などみても、太神楽にはつきものはずですが剣の舞をしないところがあります。かと思うと、下夏狩の八面神社では、真剣を抜いて舞う人を中心に6人もの舞い手が一緒に剣の舞を行なうので乱舞のような勇壮な躍動美を見せるところもあります。



会所舞（玉遊び）中小野



会所舞（鈴の舞）上天神町

唄も伝承されていく間に変化が起きています。例えば幣の舞での唄を比較しますと、法能では

〱千早振る天の岩戸をおし開く、いざや神楽の舞開く、昔神代の始めつつ

— げに白妙のご幣を持てば 悪魔をはらい そこでがく—

と唄い、小野では、

〱千早ぶる天の岩戸を押し開く いざや神楽を舞いらする— 昔神代の始めつつ

げに白妙の御幣をもてば 悪魔を払い そこで神降

と、違いはわずかですが、上天神町、上町の金山神社では、

〱ちはやぶる 天の岩戸を押し開く 昔神代のはじめつつ いざや神楽を

舞い出す げに白妙の御幣を持てば 悪魔を払い そこで神降

と三句め四句めが入れ違いとなっており、中津森では、

〱千早振る 天の岩戸を押し開く これぞ神代のはじめかな いざや神楽

を舞いあそぶ げに白妙の御幣をもって悪魔を払う そこでがく納め

となつてだいぶ違いがでできます。

お祭りはだんだん簡略化されてきました。以前は神輿と共に獅子舞が行なわれたのに、神輿が止絶え獅子舞だけとなったり、獅子舞も後継者難で止絶えてしまったところもあります。こうした中で後継者育成に一生懸命に取り組んでいるところもあります。まだまだ存続するでしょうが、信仰の気持や祭りの意味が大きく変ってきた今日、余興が全く見られなくなったり、剣の舞が舞われないところがみられるように、獅子舞も演目が次第に変って行くと思われます。



後継者育成にはげむ小野の人々

ここでは専門的な報告書ではなく、概要を知っていただくための解説です。すから簡単に記しましたが、後継者育成のためにも、無形文化財の保存のためにも、太鼓・笛の採符とか演技録画とかが必要な時期にきているように思われます。

内藤恭義